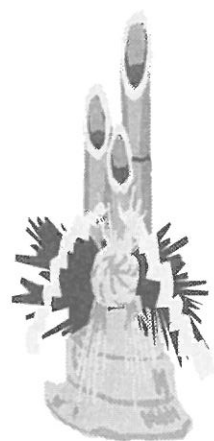


編集
責任者
林 新義



安倍自公政権の危険な暴走の歯止めとなる町政を

立山町委員会委員長 林 新義

二〇一二年十二月以来の一年は、国会での数の力を頼みに公約にもうたっていない特定秘密保護法案など、日本の将来にとって危険極まりない法案成立を拙速にかつ強権的に国民に押し付けようとしてきています。

迎える二〇一四年は、多くの国民が望まない「危ない日本」として外国から見られる方向付けがなされようとしています。

大切なのは、仮に法案が成立したからといって、それを国民に押し付けさせない大きな「ノー」の輪をつくることではないでしょうか。

町民のいのちとくらしを守る立山町にするために、米国や財界に「ノー」と言える大きな住民の輪をつくりたいものです。

町民の皆様とともに大きく前進できるようにご支援いただきますようよろしくお願いいたします。



「町民が主人公」の町政を目指して 町議会議員 こと智文

4年という任期はあっという間に過ぎ去り、この間、多くの皆様の支えによって議会活動が続けることができました。心から感謝いたします。

振り返ってみますと、国政では政権が民主党から自民党・公明党政権に変わり、政策も180度変わり、自公政権の暴走ともいえる政治が横行しています。だれのための政治なのか問われていると思いますが、大企業や大金持ちだけが潤う社会ではなく、庶民が安心して暮らせる社会こそ望まれていると思います。

町政でも、「家の前の道路を何とかしてほしい」とか「カーブミラーをつけてほしい」など身近な要求を大事にしていきたいと思っています。町行政は、国の政策ばかりを見るのではなく、「町民が主人公」の町政であってほしいと願っています。町民の願い実現のために頑張りますので、今後ともご支援を承りますようお願い致します。

デモはデモクラシーの主役

自民党石破幹事長のブログでの発言報道を見て唖然とした。「秘密保護法案」反対を叫ぶデモは「テロ行為と本質においてあまり変わらない」と。

強行成立してしまったが「秘密保護法」には、政治その他の主義主張にもとづき、国家もしくは他人にこれを強要する」とテロを解釈する条文がある。

安倍首相の記者会見を視聴して、怒りと不信感でいっぱいになった。「様々な疑問・懸念に対し説明不足だった。今後していく」という。順序が逆ではないのか！また、「一般の方が巻き込まれることは断じてありません」と宣言したが、五輪誘致の時、『福島原発汚染水は完全にコントロールされている』と世界に向かって事実と違う断言をしたように、その場凌ぎの「ハッター」に思えてならない。

国民はだまされない。秘密保護法「修正・廃止を」82%、「不安を感じる」7割（共同通信世論調査）。一人ひとりの考えや要求、それを政治に託したり、訴えたりすることは、民主主義の基本ではないだろうか。その具体化がデモであり、請願・陳情、言論や出版などでは国家権力のなすがままの世の中にさせてはならない。

(ha)

